

岩田正美教授のご退職を祝して

社会福祉学科 学科長 久 田 則 夫

岩田正美教授は本年3月をもって定年により退職されることとなりました。1998年に東京都立大学から本学に移り教授に就任。専門は社会福祉学（貧困・社会的排除論）であり、公的扶助論、社会福祉原理論など、本学科の根幹科目を長年に渡りご担当いただきました。

先生は我が日本女子大が誇る傑出した卒業生、そして、研究者の一人です。学内では人間社会学部長、現代女性キャリア研究所の所長などの重責を果たしてこられました。学外では厚生労働省社会保障審議会委員、文部科学省私立大学研究高度化推進委員会委員、日本社会福祉学会会長など、数多くの要職に就いてこられました。

私は本学に着任後、先生とは10年ほど一緒にお仕事をさせていただきました。そのなかで多くのことを学ばせていただきましたが、もっとも重要なのは、研究者、教育者、そして、大学人としての姿勢です。

研究者としては、トップランナーとしてわが国の社会福祉研究を牽引してこられました。先生と共に働くという経験を通して、今、社会福祉学の領域で研究に携わる者にはどのような姿勢が求められるのか、多くの示唆に富むヒントを学ばせていただきました。

教育者としては、学部教育は言うまでもなく、大学院での教育にも力を傾注してこられました。学部生に対しては、専門領域に関する教育と同時に、一人の女性としてどう生きていくか、現代女性のライフデザインおよびキャリアデザインについても教授されています。大学院教育においては、多くの研究者の育成に携わってこられました。先生のもとで博士号を取得した卒業生は、全国各地の大学で教員として活躍されています。今、大学の使命は次代を担う傑出した人財を育成していくことだと言われてはいますが、先生はまさにその重要な使命を果たし続けてこられました。人財育成に向けた先生の情熱あふれる取り組みは、後輩教員である私たちが承継すべき重要な姿勢と言えます。

大学人としては、成瀬仁蔵先生の教えに根ざした大学・学部・学科の発展に日々力を尽くしてこられました。学科内の会議、教授会などの場で示される様々な言動からは、大学・学部・学科に対する深い愛情と思いを見て取ることができました。先生のよき大学人としての姿勢は、後輩教員である私たちにとって、よきロールモデルとなっています。

これら重要なことを共に働くなかで直に学べたことに、心から感謝申し上げます。先生は、わが国の社会福祉学会は言うまでもなく、大学・学部・学科教職員、そして、学生・卒業生にとっ

て大切に重要な宝物です。ご退職後も、様々な形でご指導ご鞭撻いただけますようお願い申し上げます。あわせて、今後のさらなるご活躍を祈念しております。

2015年3月